



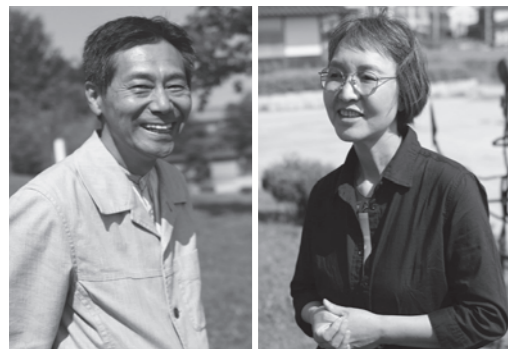
ずっと探していた本当のふるさとです

古川地域福沼地区在住・移住歴3か月

江口修平^{なかとし}さん・由美子^{なかとし}さん

「おはようございます」「いい天気ですね」そんな散歩途中に出会う人たちの何気ないあいさつからも、人のふれあいを感じ、自然と笑顔がこぼれてしまうという江口さん。いっしょに散歩仲間もできて、地元の人たちとの交流も始まりました。「ここは人情というものが脈々と流れているので、しょうね」と話します。

食べ物がいしくてうれしいというお二人。特に野菜のおいしさには感激したそうです。吉野作造記念館前で開かれる朝市が楽しみで、新鮮な野菜や漬物を品定めしながら、売り手との会



江口修平さん 江口由美子さん
「古川は食べ物・空気が美味しく、人が温かい。古川に来てからは、散歩をしたり、ゆっくり食事をしたりと、日常の生活を楽んでいます」

この春、埼玉県越谷市から古川地域にやってきた江口さんご夫妻。これまでは修平さんの仕事の関係で、ずっと首都圏で生活を送ってきましたが、由美子さんが肺を患ったため、空気の良いところに移動したいと希望し、この春古川にある関連企業に転職になりました。現在は古川中心部の中でも静かな住環境が魅力の福沼地区にお住まいです。

古川に初めて来た時の印象は「空気がおいしいな」ということ。地方都市でありながらも、自然豊かな街だと感じ、二人ともこの街を大変気に入りました。古川での生活が始まると、由美子さんはこれまでよりずっと呼吸が楽になったそうです。

毎朝、江合川の堤防沿いの道を散歩するのが気持ちいいという修平さん。散歩道の花々や木々の美しさ、のどかな鳥たちのさえずり、そして川原から望む山々の美しさに自然の豊かさを感じ、感謝していると言います。

「おはようございます」「いい天気ですね」そんな散歩途中に出会う人たちの何気ないあいさつからも、人のふれあいを感じ、自然と笑顔がこぼれてしまうという江口さん。いっしょに散歩仲間もできて、地元の人たちとの交流も始まりました。「ここは人情というものが脈々と流れているので、しょうね」と話します。

話も楽しみます。「この間、岩タラという野菜を買いました。お店の人が食べ方を教えてくれて、そのとおり調理したらとてもおいしくて。福とはこのことですね」と笑顔がこぼれます。

そして、由美子さんの織物に挑戦したいという若いころからの夢が、古川に来てかかれました。リサイクルデザイン工房の裂き織り教室に通い、とても楽しまれています。その教室で同じ趣味の友人もできました。

週末は二人で、のんびりと鳴子温泉や松島などに出かけて楽しんでいるそうです。「今までは出かけると言っても何時間もかかり、疲れて帰ってきてました。こちらは余裕を持って休日を楽しめることができます」と、休日の過ごし方も変わってきました。

「ここは私たちがずっと探していた本当のふるさとです。終生の地にしようかと話しているんです」
お二人の大崎ライフは始まったばかりです。



心地よい風景の中で暮らしています

田尻地域大貫地区在住・移住歴10年

幕田晶子^{まくたあきこ}さん (イラストレーター・デザイナー)

イラストレーターの幕田さんが仙台から田尻大貫地区に移住して10年が経ちます。

幕田さんと田尻との出会いは、デザイン事務所を経てフリーで仕事をしていたときに参加した無栗沼の雁を見るツアーでした。第一印象は「空が広いなあ」ということ。初めて訪れた無栗沼の自然は、幕田さんのアンテナをくすぐりました。

以前から生活の場を移動したい、自然のあるところに住みたいと思っていたこともあり、いい風景といい人たちとの出会いも重なり「ピタッとくるものがあつた」のだそうです。直感的にここに住みたいと思い、自然の豊かさや人の魅力に誘われ、田尻地域大貫地区に越してくるようになりました。

それまで環境保護活動とは関わりがなかったという幕田さんですが、無栗沼の自然や保護活動に取り組む人たちと出会い、話を聞くうちに、関心を持つようになります。「都市と自然、両方のバランスがとれて保たれているんだと思う。こっちに来てから強く思うようになった」と話します。

NPO法人「無栗ぬまっこくらぶ」には立ち上げから参加し、現在もメンバーとして活動しています。これまで、くらぶで発行した環境絵本やステッカー、環境省や教育機関などの環境教育に関する出版物などを手がけました。

その作品からは、優しさや楽しさ、温かさ、懐かしさなど、たくさんのご感想が感じられます。住んでいる場所の



▲幕田さんが手がけた無栗ぬまっこくらぶや環境教育に関する出版物。幕田さんの作品は見る人に好奇心の芽を植えつけます。

環境が、作品づくりにとても影響しているのだそうです。

未来のことを考えて自然と共生している大貫地区は幕田さんにとって居心地のよい場所です。そして、地域のコミュニティが生きていて、そこに住む人たちがとても魅力的だと言います。

今年から大貫地区の地域づくり委員会「大貫かんぼりや委員会」のメンバーにもなりました。「ここに住んでいる以上何か地域の役に立てたいいなと思って」と話します。

鳥のいる風景が好きだという幕田さん。「大好きな風景の中にあることが気持ちいい」。ここは自然の力を強く感じる場所。風がいい、鳥の声がいい、花がきれい、そういうささやかな自然の美しさを、素直に楽しめる場所だと言います。

好奇心のアンテナを巡らせながら、幕田さんはここで、自然を感じる生活を楽しんでいます。